

出雲、エミシ、クマソからみた Nation Building

民族の創出

同質社会幻想からの脱却と多元国家観の構築を目指して

総目次

はじめに

第1章 出雲からみた民族の創出 1-55

- 1 漢字語「民族」の誕生
 - (1) NATION の訳語
 - (2) 幕末のわれわれ意識
- 2 神武創業の始めに原づく王政復古
 - (1) 神話時代への回帰
 - (2) 出雲信仰の排除と国家神道
- 3 大和民族の登場
 - (1) 記紀神話に基づく民族の創出
 - (2) 倭神話と出雲
- 4 出雲民族の誕生
 - (1) 出雲民族概念の出現
 - (2) 出雲民族意識の発生と広がり
 - (3) 複数層の民族概念
 - (4) 民族の違いを実感させたもの
 - (5) 戦後の出雲民族論
- 5 民族のるつぼとしての混合民族論
- 6 民族概念再構築の課題
 - (1) 日本のマジョリティは何民族か？
 - (2) まつろわぬ人々の復権

第2章 言語不通の列島から単一言語発音への軌跡 57-91

- 1 言語不通の列島
 - (1) 時代劇のうそ
 - (2) 文語を話す
 - (3) 江戸時代の共通語は漢語？
 - (4) 標準語不在の明治前半期
- 2 国語と標準語の創作
 - (1) 標準語と国語の登場——東京山手の教育ある中流家庭の言葉
 - (2) 天皇家の母語喪失——標準語になれなかった京都言葉
 - (3) 人工の言語——標準語の創造
 - (4) 民族国家の希求と方言の撲滅
- 3 出雲言葉からみる言語画一化の過程
 - (1) ラジオ放送の始まりと方言コンプレックス

- (2) 日本語均質化の完成
- 4 言語と方言の境界
- 5 風土と文化と言葉

【資料1】山浦玄嗣『ケセン語入門』序論「母なる国ケセン」(抜粋) 99-106

【資料2】山浦玄嗣『ケセン語の世界』(抜粋) 106-108

第3章 二人の現津神——出雲からみた天皇制 109-154

- 1 出雲国造——天の下造らしし大神の祭祀王
 - (1) 1世紀で乖離した国造と天皇の知名度
 - (2) 古代出雲王の末裔
 - (3) 前近代における出雲国造の権威
- 2 王権を受け継ぐ御杖代——国造の火継式と天皇の大嘗祭
- 3 天皇の変貌——祭祀王から絶対神へ
 - (1) スメラミコト——古代ヤマト王の末裔
 - (2) 幕末のミカド——山城国の宗教的権威
 - (3) 操り人形の玉
- 4 二人の生き神と民衆
 - (1) 天子(様)の宣伝——天皇像の民衆への浸透
 - (2) 国造の巡教、天皇の巡幸
 - (3) 民衆の生き神信仰と国造、天子
- 5 出雲の抹殺？
 - (1) 祭神論争と出雲の周縁化
 - (2) 政治家への転向
 - (3) 祭祀権を失った現津神——天皇存在の意義

第4章 創られた建国神話と民族意識——記紀と出雲神話の矛盾 155-187

- 1 記紀神話と出雲
- 2 神話を根拠に成り立つ国家と大和民族
- 3 大和神話と出雲神話の矛盾
- 4 戦後の建国神話教育——戦前との連続性
- 5 いくつもの創世神話が共存する多元社会

第5章 島国観再考——内なる多文化社会論構築のために 189-250

- 1 日本の島国観と単一文化論
 - (1) 孤立した島国の農耕民という自画像
 - (2) 対馬・宮古島からみる島国論の矛盾
 - (3) 大きな島の小さな根性
- 2 人を繋ぐ東アジアの巨大な内海
 - (1) 逆さ地図が語るもの
 - (2) 国引き神話と海流の道
 - (3) 海の道のフロンティア
- 3 新羅や越と結ぶ出雲の海人文化
 - (1) 新羅と結ぶ出雲
 - (2) 越前の反り子と小羽山30号墓

- (3) 出雲地名とオオナムチの伝承
- (4) 寄り神信仰とケタ文化圏
- (5) 海人文化の伝播——アイの風と出雲節
- 4 近代国家の誕生と人を隔てる海への転換
 - (1) 近世まで続いた海の道
 - (2) 裏日本の創造
 - (3) 水上から陸上へ——交通網の転換と南北の逆転
 - (4) 本州北岸域の人為的凋落とヤマト起源史観の拡がり
- 5 裏日本の復権と多元社会観の構築
 - (1) 日本海文化論を巻き起こした出雲型墳墓
 - (2) 海でつながる多元世界

第6章 アテルイ復権の軌跡とエミシ意識の覚醒 251-299

- 1 エミシをめぐる自意識と他者認識
 - (1) 民族国家の形成とエミシ
 - (2) 矛盾する自己認識
 - (3) 中近世から近代日本における他者による奥羽・東北観
- 2 アテルイの戦いと悪路王の伝説
 - (1) ヤマトの侵略とエミシの抵抗
 - (2) 東北の鬼と悪路王の伝説
- 3 東北「熊襲」発言事件にみる現代日本のエミシ観
 - (1) 大阪商工会議所会頭がもらした畿内人の東北観
 - (2) 東北人の怒り
 - (3) 再生産される東北人蔑視観
- 4 エミシの末裔という自意識
- 5 アテルイ復権を導いた人々とその思い
 - (1) 一カ一夫河北新報社長
 - (2) 「延暦八年の会」と「アテルイを顕彰する会」
 - (3) 関西アテルイ顕彰会(北天会)
 - (4) 映画「アテルイ」と鳥居明夫・シネマとうほく社長
 - (5) アテルイ復権をめぐるその他の動き
- 6 東北の風土が育むエミシ民族

第7章 クマソ復権運動と南九州人のアイデンティティ 301-348

- 1 熊本県球磨郡免田町のクマソ復権運動
 - (1) クマソの子孫というコンプレックス
 - (2) 免田町一職員の奔走とクマソ復権元年
 - (3) 鎧金神獣鏡がシンボル
 - (4) クマソ復権運動の始動
 - (5) のクマソ復権を目指すドラマ作り
 - (6) ドラマ後のクマソ復権運動
- 2 クマソ・ハヤトとは何者か
- 3 ヤマト勢力の南進とクマソ・ハヤトの抵抗
 - (1) 広大な日向国とヤマト勢力の南限
 - (2) 薩摩国の創設(702年)

- (3) 大隅国の創設(713年)
- (4) ハヤトの蜂起(720年～721年)
- 4 ネイション・ビルディングの中で創られたクマソ民族像
 - (1) 教科書に書かれた熊襲
 - (2) 日常生活に息づくクマソ伝説
- 5 クマソ・ハヤトをめぐる自意識

第8章 新たな民族の誕生——池間民族に関する考察 349—377

- 1 誇り高き池間民族
 - (1) 映画「さよならニッポン！」と池間島
 - (2) 池間島を元島とする移民の末裔
- 2 池間民族をめぐる言説
- 3 池間民族意識を根拠づけるもの
- 4 民族とは何か？
- 5 宮古諸島の多様性と池間民族
- 6 多元社会・日本における民族観

終章 同質社会幻想からの脱却と多元社会観の構築 379—401

- 1 単一民族発言が望むもの
- 2 単一民族ではなく、同質民族ならいいのか？
- 3 高度経済成長期の企業社会構造と同質化
 - (1) 企業社会と単一社会
 - (2) 企画大量生産型近代工業社会の体質と気質
- 4 多元社会観への転換
 - (1) 郷土を犠牲にする国家
 - (2) 網野善彦が残した課題
 - (3) 多元国家としての日本像

あとがき

【コラム】

- 三宅米吉「国々のなまり言葉につきて」 71
- 伊勢神宮の改造と神々の抹殺 140
- 漂流がもたらした文化の伝播 201
- 映画「アテルイ」製作上映の呼びかけ（抜粋） 285
- 映画「アテルイ」エンディング（ATERUI will HERO） 287
- アタカラの星 371